

マテリアリティ

4

品質と安全 — 品質 —

私たちは国内外のグループ会社17拠点でISO9001の認証を取得し、継続的に品質改善に取り組んでいます。また、私たちをサポートいただいている委託先の品質に関する責任についても全うするため、委託先の自主性を尊重しつつ、品質パトロールなどを積極的に支援することで東洋アルミ生産拠点外での品質事故の未然防止にも努めています。これからも私たちはお客さまから一層信頼いただける企業を目指して、社会規範を遵守し、さらなる品質の向上に努めていきます。

石黒 秀雄

執行役員

コーポレート部門総務ユニット並びに品質保証ユニット担当

「品質保証部門と製造部門は、車(企業)の両輪」

車は、片方の車輪の力が強くバランスが悪い状況や動くスピードが違うと真っ直ぐに走ることができません。ものづくりも同様で、お互いの立場を尊重し、補完しあうことが大切であり、結果、相互牽制が働く最大限の力が発揮できる組織が生まれると考えます。この考え方を体現すべく、当社の品質保証体制は、3ラインディフェンスを敷いています。まず現場で、次に品質保証部門が、そして監査部門の各々が異なる視点で、品質の維持向上にあたっています。品質保証の基本は「決められたことを決められたとおりに」であり、当然のことではありますが、受注から出荷までの各工程に携わる全ての人が、責任を持って誠実に取り組むことが求められます。「会社の命」を守るためにひたむきに取り組んでいます。



品質保証の取り組みを 是正から予防へと深化させ、 さらなる信頼獲得へ

新田 「顧客とともに」「信頼の獲得」をキーワードにして品質の不適切行為の防止に継続して取り組んでいます。2025年度は新たに「次世代の品質管理の実現」と「やりがいの実現」を掲げ、AIやIoTなどの最新技術の導入による品質管理プロセスの効率化、品質教育によるメンバーの成長促進、事業所間の横串活動を中心にした連携強化に注力しています。万が一、品質問題が発生した際には速やかに情報を開示して原因や再発防止策を明確に示せるような体制づくりを推進していきます。さらには、是正

措置にとどまらず品質事故の予防も含めた「攻め」の品質保証ユニットに進化させ、信頼される品質づくりを目指します。松本 「製品の安全安心を確保することで顧客満足と社会的信頼を獲得する」という方針のもと、自社工場のみならず協力会社の工場の監査体制を整え、品質保証に取り組んでいます。また、変更点管理の強化等行い、2024年度は前年比でのクレーム件数は減少するなど、一定の成果が見られました。しかしながら、出荷した「サンホイル®」の一部商品にキ

ズがある事例が発生しました。すぐに対外公表し当該商品を回収するとともに、東洋アルミニウム(株)千葉製造所の品質保証チームと連携して本質的原因を追究し、是正措置と改善活動を行いました。今後は単なる是正措置にとどめず、予防措置へと業務をシフトさせることで、品質事故の未然防止を図ります。顧客満足度を高める品質活動をさらに推進し、統計的手法を用いた品質管理から会社のブランド力の向上を目指していきます。

東洋アルミエコープロダクツ株式会社
コーポレート統括ユニット
品質保証チームリーダー
松本 純

コーポレート部門
品質保証ユニットリーダー
新田 敏彦

品質保証の進化と次世代への挑戦

『安全と品質は会社の命』

当社のような製造業において「安全」と「品質」は企業の命であり、どちらが欠けても事業の継続は不可能です。加えて、不適切行為の防止も企業の信頼を守るために欠かせません。品質保証は、顧客の信頼を守り、企業の持続的成長を支える重要な柱であり、誠実な姿勢と透明性がその基盤となります。

従来の品質保証は、不適合品やクレーム対応を中心とした「トラブル対応型」で、問題発生後に動く後手の体制が主流でした。これでは根本原因の追究や再発防止に限界がありました。

現在求められる品質保証は、「未然防止」と「全社的な品質意識の共有」です。設計段階からの品質の作り込み、工程内でのモニタリング、蓄積データの分析とそれによる改善が求められています。加えて、不正・改ざん・隠蔽などの行為を防ぐための内部統制や倫理教育の強化も重要です。特に不適切行為の防止に向けては、社長自らが全事業所を訪問し、事業所対話会を開催することで、従業員一人ひとりの品質意識の向上と企業文化の醸成に取り組んでいます。

未然防止型の体制の構築には、全従業員の品質意識改革が必要です。品質は品質保証部門だけでなく、技術・製造・購買など全ての部門が一体となって取り組むべき課題です。

過去の事例を形式知化し、再発防止策を徹底することに加え、不適切行為の兆候を早期に察知し抑止する仕組みづくりが求められています。

次世代の品質保証は、不良ゼロを超え、サステナビリティや社会的責任を含む「価値創造型」へと進化する必要があります。環境負荷の低減、法規制対応、グローバル基準への適応に加え、倫理的な企業行動の徹底が不可欠です。また、人口減・高齢化に備え、ベテランの知見を若手へ継承する仕組みづくりも重要な課題となってきています。

これからの品質保証は「守り」ではなく、企業価値を高める「攻め」の戦略です。100周年を迎える2031年に向けて、東洋アルミ一丸となって、健全で誠実な品質文化を築いていきます。



群馬製造所 事業所対話会

JIS Q 9100認証取得と今後の展望

2025年5月31日、日野製造所は航空・宇宙・防衛分野向け品質マネジメント規格「JIS Q 9100」の認証を取得しました。これは、高品質・高信頼のものづくり体制を備えていることの証であり、より安全性の高い製品の品質を保証することに寄与します。今後はこの認証を足がかりに、航空宇宙産業への本格参入を目指し、技術力と品質力をさらに磨くとともに、社会に貢献する製品づくりを推進していきます。特に、3Dプリンター用のアルミ合金粉末の開発・供給を通じて、次世代のものづくりに貢献していきます。信頼されるパートナーとして、未来の産業を支える存在を目指します。



JIS Q 9100マネジメントシステム登録証



日野製造所



マテリアリティ

4

品質と安全 — 安全 —

2025年度東洋アルミの安全目標

- ①安全意識を高め「しっかり決めて、きっちり守る」文化を定着
- ②感性を高め、「気づき」で災害の未然防止
- ③重篤災害の未然防止活動をグローバルに展開
- ④教育訓練を体系化し、安全文化を醸成
- ⑤積極的な設備投資で安全安心な職場環境へ整備

私たちは「安全と品質は会社の命」を掲げ、最優先すべき価値のひとつとして安全確保に努めています。国内外19の拠点とグループ安全統括チームが連携し、重篤災害の未然防止と再発防止に力を注いでいます。過去の災害教訓を全従業員で共有し、「二度と繰り返さない」という誓いのもと安全文化を浸透させています。さらに、体感訓練など五感で危険を実感できる教育を積極的に展開し、一人ひとりが安全意識を高めています。今後も、全拠点が一体となり、安全確保を最優先に重篤災害の未然防止に取り組んでいきます。

辻野 雅佳

執行役員

内部監査チーム、グループ安全統括チーム並びにコーポレート部門事業支援ユニット担当

昨年、東洋アルミの事業所では重篤災害は発生しませんでした。が、「一歩間違えば重大事故になり得た」事例が数件発生しました。これは、現場に潜む危険リスクが今なおどこには存在していることを示しています。だからこそ、私たち一人ひとりが日頃から主体的に危険リスクの低減活動に取り組み、早期発見・対応することが重要で、グループ安全統括チームでは「重篤災害の未然防止」に重点を置き、5ゲン主義の強化や3ステップメソッドを活用したリスク低減活動を推進しています。『笑顔で出社して笑顔で帰れる会社』であり続けるために、安全意識を高め、「ルールをしっかり決めて、きっちり守る」安全文化を醸成させること。それが私たちの重要な役割のひとつだと考えています。



安全について 気軽に語り合える職場づくり

栗栖 東洋アルミエコープロダクツ(株)は東洋アルミニウム(株)のグループ安全統括チームと綿密に連携しながら安全活動に取り組み、国内3工場とも無休業災害日数を更新しています。2025年度は「ルールを守る」に注力した活動に取り組んでいます。単に「ルールを守れ」と

言うだけではなく、気づいたことは声をかけあって改善していくような機会にし、「ルールが守れる風土づくり」を推進していきます。仕事をして無事に家に帰るといふ当たり前のことですが、「笑顔で出社して笑顔で帰れる会社」について気軽に語り合える職場づくりを目指していきます。**角屋** 以前はマーケティングチームで生活者の皆さまに喜んでいただける商品づくりに取り組んでいました。その商

品をつくる工場で事故が起ってしまうと、誰も幸せになりません。安全担当になって、ものづくりにおける安全の大切さを改めて感じました。怪我や事故は工場だけでなく、オフィス部門でも起こります。ちょっとした不注意や慣れが事故につながるの、誰もが自分事として安全について意識し、注意喚起や気づきをみんなで意見を言い合えるような工場やオフィスにしていきたいです。



東洋アルミエコープロダクツ株式会社
コーポレート統括ユニット
総務リスクマネジメントチーム
角屋 静江

東洋アルミエコープロダクツ株式会社
生産ユニットリーダー
栗栖 真一

重篤災害再発防止の誓い

2024年は、過去の重篤災害を二度と繰り返さないという強い決意を新たにした年となりました。東洋アルミでは、これまで5件の死亡事故が発生しています。八尾製造所では、2007年7月7日に起きた酸欠事故の現場に楠本社長が犠牲者への哀悼とともに「二度と悲惨な災害は起こさせない」という誓いを表明しました。従業員もその想いを受け止め、重篤災害の未然防止に努めています。また、茅ヶ崎製造所(萩園)では、前身の旧東海金属(株)菊名工場で1968年11月8日に発生した火災事故の教訓を決して風化させることなく、楠本社長が再発防止の誓いを表明し、従業員は、「皆が元気に出社し、無事に家族のもとへ帰る」という当たり前の幸せを守るため、安全な職場づくりへの決意を新たにしています。さらに、エー・エル・ピー(株)では、1993年10月19日のアルミ屑プレス機作業中に起こった重篤災害を教訓に、東洋アルミエコープロダクツ(株)山口社長(当時)と従業員が現場で再発防止への決意を確認し合いました。「二度と悲惨な災害は起こさない」という強い想いを全員で共有することで、安全意識の一層の向上が図れました。

私たちは今後も災害の教訓を風化させることなく、「安全と品質は会社の命」という意識のもと、安心して働ける職場づくりと重篤災害の未然防止を全拠点に展開していきます。



茅ヶ崎製造所 重篤災害防止の誓い



エー・エル・ピー(株) 再発防止の宣誓

体感訓練による安全意識の向上

製造現場では、実際の事故を経験せずに危険や教訓をどのように伝えるかが課題となっています。私たちはその解決策として、疑似体験で危険を実感できる「体感訓練」に取り組んでいます。五感で危険を体感することで、ハザード認識や保護具の重要性をより深く理解できるようになります。こうした考えから、蒲原製造所と八尾製造所では体感訓練道場を開設しました。



カッター切創訓練用手の模型



カッター切創訓練

また、特別な設備に頼らず多くの従業員が参加できるよう、カッターによる切創訓練も実施しています。2024年5月には群馬製造所と新庄製造所で切創の体感訓練を行い、指に模したソーセージに手袋を装着しカッターで切ることで、切創事故の危険を現実的に体験できました。さらに、切創防止手袋の有無による違いを体感し、保護具着用の重要性を改めて理解することができました。参加者からは「感触が生々しく事故の怖さを実感した」「保護具の必要性を再認識した」といった声が多く寄せられ、体感訓練の効果を感じています。今後もさまざまな災害リスクに対して体感訓練を導入し、従業員一人ひとりの安全意識と行動につなげていきます。私たちは、「体感訓練」を通じて全員が安全の大切さを実感できるよう取り組んでいます。今後も、より安全な職場環境の実現に向けて努めていきます。

